



面積	42.99km ²
世帯数	291,591世帯
人口	539,439人
(うち外国人)	37,629人
予算	2,543億円
職員数	2,694人



KOTO City in TOKYO
スポーツと人情が熱いまち 江東区

江東区ロゴマーク

平成28(2016)年に全国より760作品もの応募のあった中から選ばれたロゴマーク。ハートの形は、スポーツの感動や鼓動と江東区民の温かい人情(心)を同時に表しています。



発展する臨海部エリア

豊洲市場などの開場や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催後も、持続的に発展を続ける臨海部エリア。



横十間川親水公園と和船

豊かな水辺と緑に囲まれた水彩都市。みどりの中都市「CITY IN THE GREEN」の実現をめざします。

みんなでつくる伝統、未来 水彩都市・江東

江東区

歴史・見所・名所

「江東」の区名は、隅田川の東に位置する地理的な意味から名付けられたもので、江東の「江」は深川、「東」は城東の意味も含んでいます。古くは江戸時代から使用されており、広く隅田川の東部を指す意味もありました。

江戸時代までは東京湾に注ぐ河川のデルタ地帯の一部で、海面と散在する小島があるだけでしたが、徳川家康の入府後に埋め立てと開発が進みました。深川地区は、区内を縦横に走る掘割や河川を利用した木材・米・油問屋の町として栄え、江戸市民の遊興地としてもにぎわいました。城東地区は、江戸近郊の農地として、野菜類を江戸市民に供給し早くから促成栽培が行われていました。また、江戸近郊の行楽地としても知られていました。

明治時代になると、広い土地と水運を利用した東京の工業地帯として発展し、昭和22(1947)年に深川・城東の2区が合併して、現在の江東区が生まれました。

概要

【区の地理】

江東区は、東に荒川、西に隅田川が流れ、南は東京湾に面しています。また、内部河川や運河が縦横に走っており、まさに「水彩都市」の名にふさわしいまちです。

【人口推移】

江東区の人口は、平成10(1998)年を境に人口増加が続いています。臨海部を中心とした大規模開発に伴う社会増が主な要因となっており、また、令和6(2024)年4月1日時点で37,629人となっている外国人の増加も特徴的です。

【区の特性・特徴】

江東区には運河や内部河川が数多くあり、水辺と緑が創り出す美しい景観が大きな魅力の一つとなっています。また、東京湾に面する区南部地域に、臨海副都心などの広大な開発地を有していることも特徴的です。

さらに、江戸切子や木場の角乗、深川八幡祭りなど江戸の歴史・文化や人情味あふれる下町情緒が残る一方で、臨海部では東京の新しい顔として豊洲や有明地区等で開発が着実に進められています。平成30(2018)年の豊洲市場の開場に続き、令和6(2024)年には豊洲 千客万来が開設したほか、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、多くの競技会場が臨海部に整備されるなど、伝統と未来の両面を活かしながら発展を続けていることも江東区の大きな特徴として挙げられます。

主要課題

令和2(2020)年3月、令和2(2020)年度から10か年の区取組の方向性をまとめた羅針盤として、新たな長期計画を策定しました。

長期計画では、まちづくりに大きな影響を及ぼす政策的な課題を「重要課題」とするほか、重点的な取組として7つの「重点プロジェクト」を掲げ、施策を横断的に連携させながら着実に取り組んでおり、令和7(2025)年度からの後期期間開始に向けて、新たに設定しました。

【重要課題】

1 地下鉄8号線延伸を契機とした魅力あるまちづくり

- ・地下鉄8号線の延伸を契機として、新たな回遊性の創出や区全域にまちづくりの機運醸成が期待され、区の更なる一体感を育み、江東区民であることの喜びと誇りを持てるまちの実現に向けて取り組んでいきます。
- ・2030年代半ばの開業を見据え、地域住民や地元企業とともに沿線各駅周辺のまちづくりに取り組むことで、地域資源を活かしながら、新たなにぎわいを創出し、人や地域を相互につなぐ、区の一体的な発展をめざします。

2 区民が安全・安心に暮らせる災害に強いまちづくり

- ・激甚化・頻発化する集中豪雨や地震等の災害による被害を最小限に抑えるため、さらなる建築物の耐震化、不燃化の促進、救護体制の確立など総合的な視点から対策を進めていきます。
- ・全ての区民が災害を「我が事」として捉え適切な行動につなげるため、防災意識を醸成するとともに、自主防災組織(災害協力隊)への支援など、家庭や地域における防災の取組みを促進します。



深川八幡祭

江戸三大祭りのひとつ。伝統的な「ワッショイ」の掛け声と別名「水かけ祭」の名のとおり、沿道の観衆から担ぎ手に清めの水が浴びせられる様は圧巻です。

【7つの重点プロジェクト】	方向性
重点1 水彩・環境都市づくり	・水辺と緑に彩られた魅力あるまちの形成 ・環境負荷の少ない地域づくり
重点2 こどもたちが希望を持てるまちづくり	・安心してこどもを産み、育てられる環境の充実 ・生きる力を育む魅力ある教育の充実 ・こどもの未来を育む地域社会づくり
重点3 地域の活力を生み出すまちづくり	・健全で活力ある地域産業の育成 ・笑顔あふれる地域社会づくり ・女性をはじめ、誰もが輝けるまちづくり
重点4 誰もが安心して住み続けられる社会づくり	・誰もが安心して、自分らしく暮らせる福祉施策の推進 ・健康で安心して生活できる保健・医療体制の充実
重点5 持続的に発展するまちづくり	・地域の特色を活かしたまちづくり ・快適な暮らしを支えるまちづくり
重点6 臨海部のまちづくり	・次世代を見据えたまちづくりの推進
重点7 区の魅力を発掘・発信しつづけるまちづくり	・積極的かつ戦略的なシティプロモーションの推進

【新庁舎の整備】

現庁舎は竣工から50年以上が経過し、施設の老朽化等に伴い、様々な課題を抱えています。そこで、区では、築60年から65年を目安として、新庁舎の整備に向けて、準備を進めており、令和6(2024)年度には、新庁舎の目指す姿やあり方等を整理し、新庁舎整備の基本理念や基本方針などをまとめた基本構想を策定しました。今後は基本構想で掲げた新庁舎の将来像を実現するため、基本計画の策定など具体的な検討を進めるとともに、目標年次内に着実に整備がなされるよう計画的な事業推進を図っていきます。

将来展望

本区の人口は増加傾向が続く中、令和6(2024)年4月には54万人に到達し、未来への限りない可能性を秘めたポテンシャルの高いまちとして、めざましい発展を遂げてきました。一方で、社会の変化は一層加速し、超高齢化やグローバル化、価値観の多様化や情報通信技術の進展、また、多発する地震や水害等の自然災害への対応など、未来を見据えた区の取組が一層重要となっています。

江東区は、区民生活最優先の区政を進め、区民の誰もが安全・安心に暮らせるまちづくりに取り組むとともに、区の持つ魅力を発掘・発信していくことで「笑顔があふれる江東区」をめざします。